

Title	会計学
Sub Title	Accounting
Author	小高, 泰雄
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1949
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.42, No.5/6 (1949. 6) ,p.340(60)- 351(71)
JaLC DOI	10.14991/001.19490601-0060
Abstract	
Notes	研究指針
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19490601-0060">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19490601-0060</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 會計學

小 高 泰 雄

現代の企業は資本循環の形態に於いて生産活動を行ひ、これに對して獨立の計算制度を持つてゐる經濟である。廣く社會に散在する蓄積せられた貨幣を蒐集して企業資本を構成し、一定の計畫に則して土地建物原料其の他の生産財を整へ、支拂手段を準備し、これ等の具體的諸財を利用して新なる商品を生産する。財の消耗によつて生じた原價價值額と商品價值との差を餘剩價值として收益してゐる。企業はこの過程を連續的に遂行するのであるが、この間に於ける資本構成の變化、價值消耗の態様、餘剩價值額の量を正確に把握し、企業經營を合理的ならしむる爲めには企業資本の構成及び其の運動によつて生ずる諸程の經濟資料を精確に計算的に處理することなくしては全く不可能である。この生産過程を遺漏なく完結せる計算體系の中に収録してゐるものが資本計算制度である。寔に會計學の研究對象は資本計算制度にある。

と云ふことが出来よう。會計學の定義は種々存するのであるが、それについては別の機會に譲り、こゝでは、企業資本の構成及び其の運動に關する經濟資料を合理的に分類し、記録し、表明する諸原則を研究する學問があるとして置かう。

さて大規模化した近代企業經營に於いては勿論、中小規模の企業に於いて更には又資本計算の獨立性を基礎とする多くの公益事業形態にあつても、其の經營内容を何等かの方面に於いて合理化しようとする、それが資本全體の運動と如何なる關係を有するかを省察することなくしては達成せられないからして、資本計算を研究する會計學によつて基礎付けられた正確な資料を必然的に要求することとなる。か様に企業經營そのもの、要求は恐らく會計學の探求する諸原則を導く主要な條件となつてゐるものであらう。從來會計學の研究は、かゝる企業經營

自體より生ずる要求以外の影響を蒙り、現在に於いても尙ほ蒙りつゝあることを看過し得ない。即ち企業資本が多數の出資者、債權者の資本を動員してゐる關係上、これ等の資本提供者の利益を擁護する爲めに正確な資料を調整することが必要であり、其の方面から會計原則が影響せられた傾が多分にあつた。又、國家財政の見地よりして法人所得の決定を公正ならしめる爲めの税法上の要求も亦重大な影響を與へてゐたことを看過し得ない。而して從來は主としてかゝる企業經營以外の方面よりの要求が主要な影響を與へてゐたと看することが出来る。然かしながら近代會計學の特質は漸次に前述の如き企業本來の要求に最もよく適合する計算上の諸原則を樹立する方向をとつてゐると考へられるのである。

さて現代の資本計算制度の最大の特質は先づ第一に其の期間的性格に求められる。換言すれば、資本の循環を常に一定の期間を區切つて計算的に把握する點に存する。一年を又は三の營業期に區分し、其の間に行はれた生産過程を總括し、一定時期に資本（具體資本、抽象資本）の構成を明らかにし、他面價值消耗額、總收入價值額、餘剩價值額を明らかにしてゐる。この企業資本の一定期に於ける總循環過程を遺漏なく網羅し各の時期の

計算に對して、矛盾するところなく連續性を與へるものは簿記に外ならない。簿記論に於いてはかゝる計算原理の立場よりあらゆる資本循環の意義を明確ならしめる取引論、取引處理の爲め利用せられる勘定論、取引の具體的處理に關する仕譯論、一定期末に於ける資本の構造と成績を表明する決算手續論等が其の主要なる課題となるのである。企業資本の構成と變動を示すあらゆる數字は何れもこの簿記機構を通して表明せられると云ふも過言ではないであらう。會計學の研究課題とする、經濟資料の合對的處理の爲めには十分に簿記機構に慣熟することとを要するのである。而して會計學本來の研究領域は企業資本の運動を正しく表明する爲めの妥當なる價值を與ふることに存すると云へよう。換言すれば資産、資本の評価に關聯するものである。經營經濟學に於いても評價問題は重要な研究對象となるのである。しかしこの場合は、企業經營上の各種の素材、用役を比較検討して經濟性を實現する爲めの合理的の組織と運營の要求に應ずる評價活動である。従つてそれは計算合理性に局限せられるものではない。より廣汎な經濟的評價自體に關聯するものである。しかしあらゆる比較研究の基礎たるべき各の素材や用役の價值量が正確に計量せられることなくし

てはこの要求は實現せられるとは云へない。又經濟評價に沿つて遂行せられた生産活動の結果が一定の價值として正當に計算せられなくては經營評價の根柢が動搖することとなる。かゝる實際目的に照應して本來經營經濟學の一分野たるべき會計論が獨立の科學化として取扱はれてゐると考へ得る。ともかく兩つの科學はかゝる密接な關係にあるからして其の境界線を明瞭に引き得ない場合が種々生ずるのである。ともあれ會計學に於いてはあらゆる資本運動を價值量として正確に把へ、これを明瞭に表示する點に其の主眼の存することは一般に認められるところである。而して前述の様に現存の資本計量が期間計算である關係上、一定期に資本の構造と運動の結果を表示する貸借對照表、損益計算書、餘剰金計算書を中心として或は出發點として研究を進め、其の表明する各勘定科目の價值を計算合理性の立場より検討することが重要な研究方面となるのである。而して其の際の計算合理性の基準は前述の様に企業維持の立場が中心となり、債權者擁護又は稅務上の要求がこれに附隨してゐると考へることが出來よう。(註一)

次に近代資本計算制度の特質を考へられるのは純經營活動の成果を明瞭ならしめようとする要求をもつてゐる

かの割合に應じてこれを各製品に配分することによつてのみ確定せられる。この計算の過程は生産構造を精密に分析することによつて初めて可能となる。次に近代企業の生産設備は著しく大規模のものとなつてゐるからして設備の利用度が生産原價に重大な影響を與ふことは云ふ迄もない。所謂操業度と原價の關係を分析する諸研究が重要な意味を持つて來るのである。こゝに原價計算は新なる研究問題を持つのであつて、この問題を解決することにより、經營價格政策の決定と經營規模の批判に對する重要な資料を提供することとなる。(註二)

次に以上の研究は何れも一定期間後に又は生産對象の造出後に行はれる計算を研究對象とするものである。従つて事後計算の研究であると云へる。然るに現代の企業經營に於いては資本のあらゆる運動は何等かの計畫規則して行はれてゐることは云ふ迄もない。従つて事前計畫と事後計算の關係は密接不可分と云へよう。經營の合理性を實現せんとする要求の高まるにつれてこの事前計畫を一定の計算制度の體系として組織し、これと事後計算とを不斷に照合し得る形體のものたらしめようとする。豫算統制論はかゝる企業經營上の要求に照應し生じて來つた會計學の新なる分野であると云へよう。もとより豫

ことである。資本循環を見ると企業經營活動の著しく複雑な内容を反映して、經營的活動による資本運動と、經營外的活動による資本運動とが混淆してゐるのである。企業資本運動の本質は正に前者にあるからして其の内容を殊に明確にするために特殊の計算體系が發展せしめられてゐる。企業が其の本來の生産目標を達成する爲めには一定の財の消耗を伴ふことは云ふ迄もない。これ等の經濟目的達成上の財の價值消耗額即ち原價が如何なる性格であつたかを各の種目に分類して其の總額を明らかならしめることを要する。この計算的處理によつて財造出上に於ける價值犧牲の總括の様相が觀察せられ、手段たる財及び用役の消耗が果して妥當のものであつたか否かを比較検討する根據が得られるのである。しかしながら近代企業に於いてはかゝる原價種目の各の額がそれぞれの製品に配分せられ、各の製品原價が如何程であるかを確定することが更に重要な問題となる。其の理由は近代的生産過程が頗る複雑なる構造を有してゐることゝその製品が多様化してゐると同時に大量生産せられる事實に存する。従つて商品單位當りの原價の確定には一應各種の原價項目を種々なる生産過程上の原價に還元し、各の製品が其の生産過程に於いて生産設備を如何に利用したる

算統制論は單純なる計數把握のみに問題を局限せず、統制組織を構成する爲めに新なる職能編成上の諸問題を包含する。従つて、經營經濟學の研究に委さなければならぬ分野を持つてゐる。しかし其の編成の基本原理は計算の合理的把握と運營に存するからしてこれを會計學の一分野となし得ると考へるのである。(註三)

さて以上の様な期間的計算や原價計算によつて提供せられる諸種の計數的資料が企業經營上に於いてのみならず、出資者及び債權者の立場より見て重要な意味することは云ふ迄もないところである。而して會計資料がこれ等諸種の目的を達成する爲めにはその計數の内容に誤記、不正記入のないことは勿論、計算原理自體に錯誤のないものでなくてはならない。經營規模の擴大化と其の取引の複雑化するに伴つて計算の全構造は頗る多岐多端なものとなるからして、其の正確性を證明する爲めには特に獨立した機能によつて其の計算のよつて立つ根據については勿論、其の内容の照合批判が行はれなくてはならぬ。勿論企業内に於ける會計者が其の記入に際して誤記不正を防止することは當然であるが、これとは別個に第三者がかゝる檢照を行ふことによつて初めて嚴正な判定が下される。所謂會計監査論はかゝる企業會計の監査



の原理を研究するものである。企業資本の社會的性格が漸次増加するに伴ひ、この種の會計學研究部門の重要性が高まりつゝあるのである。(註四)

さて監査に於いては會計處理の方法に於いて不正、誤謬のなかりしか否かを確定して企業資本の實態を表明するのであるが、企業を總括的に觀察して其の經營が如何程の合理性を有してゐるかを確定する爲めには、當該企業の財政表を分析することによつて初めて可能となる。この分析によつて確定せられた結果は企業資本の客觀的價值を決定する有力なる手段となる。かゝる客觀的價值の決定は單なる利潤率の増減と云ふ最終の結果を確定することによつてのみにては達成せられない。經營活動の結果がその資本、資産の構成、資本資産間の均衡關係が如何なる状態に存するかを決定し之を他の同種企業と比較するか、或は一般的基準と照合して其の隔差を勘考して初めて可能となるのである。所謂經營比較の研究はかかる均衡關係を確定しこれを如何に運用するかに關する諸種の處理方法を問題とするのである。従つてそれは企業内に於ける計算手續に關するものではなく其の計算的結果の經濟的批評の方法に關するものである。會計學の研究としては飽くまでも其の方法の探究に限られるので

あつてこれを實際に運用して現代の企業經營の狀態を明らかにすることは其の應用に屬するものであると云へよう。(註五)

註一、三邊金藏博士「會計學」九卷、昭和五年、黒澤清教授「會計學」千倉、昭和二二、太田哲三教授「會計學」商業經濟學全集、昭和一八、高瀬莊太郎博士「會計學」日本評論、昭和四、三邊博士「會計學要綱」大鏡閣、昭和二、太田教授「會計學概論」高陽、昭和一〇、有本邦造氏「會計學原論提要」第一編、總論、大同、昭和七、ホツヂ並にマツキンセー著「會計學原論」川添貞彦氏譯昭和五、確永厚次教授「會計學研究」文雅、昭和六、太田教授「會計學研究」昭和一七、同「會計學講話」昭和一四、吉田良三博士「會計學講話」千倉、昭和二三、村瀬玄教授「會計學教科書」昭和五、ブリ著「會計學通論」西恒富治氏譯、森山、昭和六、片岡義雄氏「會計學實務」三册寶文、昭和三、金子利八郎氏「會計事務管理論」昭和一七、近澤弘治氏「會計上の虚偽と誤謬」昭和一五、武藤榮治郎氏「會計綱要」昭和一五、日本會計學會「會計理論」森山、昭和一〇、山下勝治教授「會計理論の新構想」巖松、昭和一五、太田教授「會計制度論」千倉、昭和七、佐藤孝一教授「會計組織」泰文、昭和一一、高瀬博士「會計讀本」昭和一二、太田教授「貨幣價值變動會計」昭和二三、片野一郎教授「貨幣

價值修正會計」中央會計研究所第四册、昭和一六、片岡義雄氏「會計學」千倉、昭和一四、花田七五三氏「官廳會計」本澤、昭和九、島中福一氏「勘定學說研究」森山、昭和七、シユエマーレンバツハ著「コンテンツ・フー・メン」東商會、昭和六、青木倫太郎教授「管理會計」東洋、昭和二、西垣教授「經營會計學」昭和一〇、小高泰雄教授「經營計算論」巖松堂、昭和一五、日本會計學會編「經濟統制下の會計問題」森山、昭和一五、吉田良三博士「近世簿記精義」同文、昭和七、三邊博士「近世簿記通義」同文、昭和八、ウルク著「古代會計史」片岡義雄譯、昭和二三、山下教授「理論會計學」巖松、昭和二三、太田教授「理論會計研究」森山、昭和六、シユエミット「有機的對照對照表學說」山下教授譯、同文、昭和九、杉本秋男氏「動的會計學研究」昭和一二、村瀬玄教授「英文簿記提要」昭和二三、高瀬博士「グストツケルの研究」森山、昭和八、ゴンベルク「批判的勘定學說史」岡田誠一氏譯、昭和一〇、シユエマーレンバツハ「標準工業會計圖解」土岐教授譯同文、昭和二三、太田、岩田兩教授「インフレーション・會計」高陽、昭和八、長谷川博士「株式會計會計」東洋、昭和九、井上達雄教授「會計簿記精義」森山、昭和一九、陶山誠太郎教授「會計學」大同、昭和二、黒澤清教授「簿記原理」東洋、昭和九、上野道輔教授「簿記原理」有斐、昭和六、山下勝治教授「ドイツ會計學理論」昭和二三、

會計學

註二、吉田良三教授著「工業簿記提要三訂」昭和二三、同文館、吉田良三教授著「工業簿記と原價計算」昭和三年、同文館、吉田良三教授著「工業會計研究」昭和五年、森山書店、吉田良三教授著「工業會計」(商學全集第二九卷)昭和一〇年、千倉書房、吉田良三教授著「原價計算」(會計學全集第五卷)昭和九年、東洋出版社、吉田良三教授著「原價計算論」(經濟學全集第三六卷內)昭和四年、改造社、吉田良三教授著「原價計算提要」昭和一九年、三省堂、長谷川安兵衛教授著「原價會計學」昭和五年、泰文社、長谷川安兵衛教授著「原價會計概論」昭和一一、泰文社、長谷川安兵衛教授著「原價計算」(工業經營講座第七卷)昭和一二、長谷川安兵衛教授著「原價計算」昭和一六年、グアイヤモンド社、長谷川安兵衛教授著「原價計算改訂版」昭和二四年、太田哲三教授著「工業會計及原價計算」昭和一七年、千倉書房、小高泰雄教授著「原價計算論」(現代經濟新書第四部第四)昭和一七年、小高泰雄教授著「原價計算」昭和二二年、三田書店、小高泰雄教授著「經營計算論」昭和一七年、巖松堂、小高泰雄教授著「原價計算と原單位計算」昭和二二年、假ケ圖書房、小高泰雄教授著「企業經理入門」昭和二四年、勞働文化社、山下勝治教授著「新工業簿記」昭和二二年、千倉書房、山下勝治教授著「工業簿記の研究」昭和二三、三省堂、エム・エル・レーマン教授著、山邊六郎教授譯註「レーマン原價計算」昭和九年

高陽書店、シユマーレンバツハ教授著、山邊六郎教授解説「シユマーレンバツハ價格政策論」昭和十三年、森山書店  
 青木倫太郎教授著「工場原價計算法」昭和六年、大同書院  
 青木倫太郎教授著「原價計算の方法、昭和十五年、森山書店、青木倫太郎教授著「軌近原價計算」(關西學院經營研究會叢書第三册)昭和十五年、シユマーレンバツハ教授著  
 土岐政藏教授著「原價計算と價格政策」上、下、昭和十六年昭和十七年、創元社、シユマーレンバツハ教授著、土岐政藏教授著「原價計算と價格政策の原理」昭和一〇年、東洋出版社、シユマーレンバツハ教授著、土岐政藏教授著、「標準工業會計圖解」昭和六年、同文館、土岐政藏教授著「原價計算研究」第一卷昭和十四年、森山書店、土岐政藏教授著「工業會計」(經營學大系第二一卷)昭和十三年、千倉書房、黒澤清教授著「會計學」昭和二十二年、千倉書房、松本雅雄教授著「工業會計」(新經常經濟學全書第八卷)昭和二十二年、東洋書館、沼田嘉穂教授著「最新原價計算提要」昭和二十一年、眞光社、今井忍氏著「原價計算の運用」昭和十九年、伊藤書店、久保田晋二郎教授著「工業原價計算論」昭和十九年、巖松堂、ヘラツア一教授著、久保田晋二郎教授著「ヘラツア一經營計算論」(經營學名著研究三册)昭和二十二年、同文館、久保田晋二郎教授著「原構成論」(關西學院經營研究叢書第二册)昭和二十三年、復文館、久保田

晋二郎教授著「間接費會計論」(經營學名著研究第五册)昭和十七年、巖松堂、久保田晋二郎教授著「統一原價計算制度論」昭和十九年、産業圖書株式會社、杉本秋男教授著「原價計算總論、昭和十六年、同文館、渡部義雄氏著、渡部寅三氏著「原價計算法綱要」昭和二十一年、同文館、渡部義雄氏著「能率本位原價計算法」大正十五年、中外産業調査會、村瀬玄教授著「工業會計の常識」昭和十四年、千倉書房、村瀬玄教授著「工業會計入門」昭和十八年、佐藤孝一教授著「原價計算」昭和二十三年、太平社、陶山誠太郎教授著「工業會計上卷」(會計學全集第一二卷)昭和十四年、東洋出版社、神馬新七郎氏著「工場經營と會計原價計算論」昭和六年、共立社、日本會計學會編「東、下野兩教授、古稀記念論文集原價計算」昭和十〇年、森山書店、日本會計學會編「吉田、原口兩教授、還曆祝賀論文集工業會計」森山書店、日本會計學會編「吉田、原口兩教授、還曆祝賀論文集原價及原價計算」昭和十五年、森山書店、木村和三郎著「原價計算論研究」昭和十八年、日本評論社、日本原價計算協會編「原價計算圖鑑」昭和十九年、伊藤書店、山下勝治教授著「原價價格計算」(會計學大系第一六卷)昭和十七年、千倉書房、吉田良三教授著「間接費の研究」昭和二十一年、森山書店、宮崎力藏氏著「工業原價計算」昭和二十七年、科學主義工業社、宮崎力藏氏著「企業の原價計算」昭和二十五年、平野書店、獨逸産業合理化協會編、東京商工會

議所譯「原價計算の基礎案」(獨逸産業合理化資料第四四號)昭和八年、今井忍氏著「原價計算入門」昭和二十三年、

千倉書房、青木大吉著「原價計算」昭和十八年、千倉書房

Arnold, L. C. and Lang, T.;	Essentials of Cost Accounting	New-York.	1928.
Armstrong, G. S.;	Essentials of Industrial Costing		1921.
Arnold, H. L.;	The Complete Cost-Keeper	N. Y. & Lond.	1912.
Arnold, H. L.;	The Factory Manager and Accountant	N. Y.	1903.
Atkins, P. M.;	Text-book of Industrial Cost Accounting	N. Y.	1924.
Bangs, T. R.;	Industrial Accounting for Executive	N. Y.	1930.
Bunnell, S. H.;	Cost-keeping for Manufacturing Plants	N. Y.	1911.
Castenholz, W. B.;	Cost Accounting Procedure	Chic.	1926.
Church, A. H.;	Manufacturing Costs and Accounts	N. Y.	1929.
Castenholz W. B.;	The Control of Distribution Costs and Sales	N. Y.	1930.
Dohr, H. L.;	Cost Accounting	N. Y.	1924.
Eggleston, D. C.;	Problems in Cost Accounting.	N. Y.	1921.
Eggleston, D. C. and Robinson, F. B.;	Business Costs	N. Y.	1921.
Evans, H. A.;	Cost-keeping and Scientific Management	N. Y.	1911.
Gregory, H. E.;	Accounting Reports in Business Management		1928.
Harris, G. L.;	Cost Accounting, Principles and Practice		1925.
Hilgert, J. R.;	Cost Accounting for Sales	N. Y.	1927.
Jordan, J. P. and Harris, G. L.;	Cost Accounting: Principles and Practice	N. Y. 1st Ed.	1921.
Konopak, K. L. T.;	Cost Accounting Fundamentals	N. Y.	1924.
Lawrence, W. B.;	Cost Accounting	N. Y. 9th Ed.	1925.



- Moxey, E. P.; Principles of Factory Cost Accounting N. Y. 1922.
- Nicholson J. L. and Rohrbach, J. D.; Cost Accounting N. Y. 1919.
- Paton, W. A.; Accountant's Handbook N. Y. 1923.
- Reitel, C. and Van Sickle, C.; Cost Finding for Engineers N. Y. 1930.
- Reitel, C. and Van Sickle, C.; Accounting Principles for Engineers N. Y. 2nd Ed. 1926.
- Sanders, T. H.; Industrial Accounting N. Y. 1929.
- Sanders, T. H.; Cost Accounting for Control N. Y. etc. 1934.
- Schlatter, C. F.; Elementary Cost Accounting N. Y. 1927.
- Scovell, C. H.; Cost Accounting and Burden Application 1924.
- Weber, F. E.; Factory Accounting Chicago 1917.
- Wildman, J. R.; Principles of Cost Accounting N. Y. 1911.
- Newlove, G. H.; Cost Accounts 1923.
- Baste, T.; Die Verrechnungspreise in der Selbstkosten industrieller Betriebe (Betriebswirtschaftliche Zeitschrift, Hft. 5.) Berlin 1924.
- Bouffler, W.; Die Verrechnungspreise als Grundlage der Betriebskontrolle und Preissetzung Berl. & Wien 1928.
- Calmes, A.; Die Fabrikbuchhaltung, 5. Aufl. Lipzig 1922.
- Calmes, A.; La comptabilité industrielle Paris 1927.
- Hellwig, A.; Neuzzeitliche Selbstkostenberechnung 1923.
- Henzel, F.; Erfassung und Verrechnung der Gemeinkosten in der Unternehmung Berl., etc. 1931.
- Hellauer, J.; Kalkulation in Handels und Industrie Berl., etc. 1931.
- Lambert; Comptabilité et organisation administrative dans l'industrie \_\_\_\_\_
- Lascinski, O.; Die Selbstkostenberechnung im Fabrikbetriebe Fabrik-Berl. 1923.
- Lewinn, C. M.; Werkstättenbuchführung für Moderne Fabrikbetriebe. 2. Verb. Aufl. Berl. 1918.
- Lischka; Selbstkosten-Ermittlung im Industriebetrieb 1928.
- Leitner, F.; Die Selbstkostenberechnung industrieller betriebe Frank. furt A. M. 1913.
- Lehmann, M. R.; Die industrielle Kalkulation Berl. Wien. 1925.
- Löwenstein, R.; Kalkulationsgewinn und bilanzmässige Erfolgserrechnung in ihren gegenseitigen Beziehungen Lpz. 1922.
- Mellerowicz, K.; Kosten und Kostenrechnung, II. Kostenrechnung, Erster Teil, Grundlagen und Verfahrenswissen Berl. & C. 1936.
- Penndorf, B.; Fabrikbuchhaltung und ihr Zusammenhang mit Kalkulation und Statistik, (Bücherei für Industrie und Handel. Bd. C.) Berl. 1924.
- Peiser, H.; Grundlagen der Betriebsrechnung in Maschinenbauanstalten, Lehr. erw. Aufl. Berl. 1923.
- Rammel, K.; Grundlagen der Selbstkostenrechnung. Düsseldorf 1934.
- Schmalenbach, E.; Grundlagen der Selbstrechnung und Preispolitik. 5. Aufl. Lpz. 1930.
- Schmalenbach, E.; Selbstkostenrechnung und Preispolitik. 6. Aufl. Lpz. 1934.
- Schmidt, F.; Kalkulation und Preispolitik Berl. & C. 1930.
- Schmidt, F.; Die Organische Tageswertbilanz 1929.
- Wagner; Selbstkostenrechnung gemuschter Werke der Gross-eisenindustrie 1912.
- A v F. "Grundplan der Selbstkostenberechnung." Druckschrift Nr. 8. 1938.

註三、長谷川博士「豫算統制の研究」森山、昭五、古川教授  
 「豫算統制論」森山、昭八、陶山教授「企業豫算と標準原  
 價計算」大同、昭一四、木田利夫氏「豫算統制論」東洋、  
 昭和二四、東京商工會議所「豫算による企業統制」昭和  
 六、同「生産豫算及手許在高」昭和六、同「營業費の豫算作  
 成」〇、〇、〇、昭七、岩垂氏「經營豫算」昭一六、  
 Mackinsey, J. O.; Budgetary Control. 1922. Mackinsey  
 and Palmer, J. L.; Budgetary Control. (Management's  
 Handbook) Griesell, J. O.; Budgetary Control of Dis-  
 tribution. 1929. Hayes, M. V.; Accounting for Execu-  
 tive Control. 1929. Gardner, F. W.; Variable Budget  
 Control. 1914. National Industrial Conference Board;  
 Budgetary Control in Manufacturing Industry. 1931.  
 Willmore, A. W.; Business Budgets and Budgetary  
 Control. 1932. Garden, D. T.; Flexible Budgeting and  
 Control. 1937. Scott, W.; Business Budgeting and Bud-  
 getary Control. 1930. States, I. Le Controls Budget-  
 aire. 1936. Schmalz, K.; Budgetary Control (Hand-  
 wirt. f. Betriebswirt.) Ludwig, H.; Budgetkontrolle  
 in industriellen Unternehmen. 1930. Schmalen-  
 bech; Die Aufstellung von Finanzplänen. 1931. Neu-  
 berg, R.; Das Industriebudget. 1932. Henzel, F.;  
 Marktanalyse and Budgetierung, 1933. Altschul, E.;  
 Budgetierung in der Privatindustrie. 1927. Winkl-

mann, F. W.; Industrielle Budgetrechnung. 1930.  
 註四、中瀬勝太郎氏「會計監査要論」巖松、大、同「會  
 計監査要綱」同、大九、同「決算報告書の監査」同昭和一  
 三、同「組合の會計監査」昭和圖書出版「昭和一四、渡  
 邊憲二氏「決算報告書の監査手續」森山、昭和五、渡邊義  
 雅、同憲二兩氏著「會計監査」東洋、昭九、同「會計監査  
 要綱」同文、昭一二、野本悌之助氏「會計監査研究」森  
 山、昭八、陶山教授「會計監査」大同、昭八、日本會計學  
 會編「會計監査」森山、昭一〇、久保田晋次郎教授「強制  
 監査」千倉、昭一四、原口良平教授「會計監査」千倉、昭  
 一四、西野氏「經營監査の實務」タイガ、昭一五、阿部治  
 太郎氏「水産業團體の簿記と監査」昭一八、古川博士「會  
 計監査總論」同文、昭和一七、同「會計監査」同文、昭二  
 〇、三邊博士「會計監査」千倉、昭二三、神馬新七郎氏「物  
 品會計監査」ダイヤ、昭二三、岩川教授「アメリカ財務監  
 査」産業經理、昭和二三、近藤弘治氏著「監査の理論と實  
 際」巖松、昭二三、同「會計上の虚偽と誤謬」巖松、昭二  
 四、岩垂至氏「會計の監査と分析」同文、昭和二三、西  
 男氏「アメリカに於ける内部監査制度」同文、昭和二三、西  
 原教授「會計監査論」正統、昭二四、佐藤教授「監査報告」  
 太平、昭二四、田島四郎教授「貸借對照表監査」同文、昭二  
 四、米澤常雄氏「組合監査」經濟、圖書、昭一九、  
 Tipson, F. S.; Auditing. 1904. Kester, D. A.; Corpo-  
 ration Accounting and Auditing. 1909. Kenn, C. B.;

Practical Auditing. 1909. Pixley, F. W.; Auditors,  
 Their Duties and Responsibilities. 1918. Cutforth, A.  
 E.; Audits. 1919. Rose, T. G.; Fraud in Accounts  
 1919. Himmelblau, D.; Auditors Certificate. 1920.  
 Pegler, E. C.; The Principles of Auditing. 1920. pic-  
 ksee, L. R.; Auditing. 1922. Bell, W. H.; Accoun-  
 tant Reports. 1922. Bell, W. H. & Powelson, J. A.;  
 Auditing. 1926. Wildmann, J. R.; Principles of Audi-  
 ting. 1923. Bennet, G. E.; Auditing. 1925. Do; Fra-  
 ud, its Control Through Accounts. 1930. Köfner, E.  
 L.; Principles of Auditing. 1927. Costenholz, W. B.;  
 Auditing Procedure. 1927. Montgomery, R. H.; Audi-  
 ting Theory and Practice. 1929; Eggleston, D. W.  
 C.; Auditors' Reports and Working Paper. 1929.  
 Spicer, E. E.; Practical Auditing. 1930.  
 註五、渡邊寅三氏「決算報告の分析的觀察法」同文、昭和四  
 同、「貸借對照表の作品と吟味」昭和七、野本悌之助、野  
 瀬新藏氏共譯「ウォール、企業財政の比率分析」昭和九、  
 陶山誠太郎教授「經營の分析と合併に於ける諸計算」大同  
 昭和一〇、古川教授「經營比較論」昭和一〇、黒澤教授  
 「工業經營比較」千倉、昭和一二、三邊博士「經營分析」  
 東洋、昭和一三、石山賢吉氏「決算報告の見方」昭和一三  
 三邊博士「經營分析の基礎理論」三田、昭和二二、高瀬博  
 士「經營分析」東洋、昭和二四、長谷川博士「經營分析の  
 基礎知識」實業日本、昭和二四、日本興業銀行編「本邦主

要會社業經調查其ノ一、其ノ二、産業經理、昭和二三、  
 陸軍省「陸軍軍需工業經營比較要綱」昭和一六、  
 Wall, A. Ratio Analysis of Financial Statements.  
 1928. Do; The Bankers Credit Manual. 1911. Do;  
 Analytical Credits. 1921. Do; How to evaluate Finan-  
 cial Statements. 1936. Secrist; Banking Standards  
 and the Federal Reserve System. 1922. Do; Banking  
 Ratios. Bliss, J. H.; Financial and Operating Ratios  
 in Management. 1923. Do; Management through Ac-  
 count. 1924. Gilman, S.; Analyzing Financial State-  
 ments. 1928. le Courte; Praxis der Bilanzkritik. 1926.  
 Schmalz; Bilanz-und Betriebsanalyse in America. 1927.  
 ders.; Betriebsanalyse. 1929. Gerstner; Bilanzanalyse.  
 1933. Strain; Industrial Balance. Sheets; A Study in  
 Business Analysis. 1929. Gutmann, H. G.; The Ana-  
 lysis of Financial Statements. 1930. Schuttles, A.;  
 Der Betriebsvergleich. 1931. Weigmann, W.; Allge-  
 meine Grundlegung des Betriebsvergleich. 1939.  
 Hauch, W.; Der Betriebsvergleich. 1933. Zentner, G.;  
 Das Liquiditätsproblem in der Industriellen Unter-  
 nehmung. 1922. Heermann, J.; Wegweises der Bet-  
 riebsstatistik und Betriebsvergleich. 1933. Lehrer;  
 Der Betriebsvergleich. 1935. Schenk; H.; Der Bet-  
 riebskennzahlen. 1939. Kraft, W.; Erfolgskontrolle  
 mittels Betriebsvergleich. 1933.